

平成29年度

学力の定着状況の結果まとまる

本市では学力の定着を図るため、これまで「全国学力・学習状況調査」と「市の学力調査」の結果を基に、経年変化を分析し、施策に反映してきました。しかし、さらなる学力向上を図るため、平成29年度からは「全国学力・学習状況調査」と「市の学力調査」の結果を再編成して、「小学校卒業時・修了時学習定着度調査」とし、実施内容も改めています。今号では調査結果の概要をお知らせします。

《調査概要》

【名称】小学校卒業時・修了時学習定着度調査 【実施日】平成30年2月8日（金） 【教科】国語、算数・数学 【対象】市立小学校2年生・4年生・6年生、市立中学校2年生 【調査結果】平均得点率では（表1参照）…国語は小学校2年生で全国より4ポイント低く、中学校2年生で0.1ポイント高くなっています。算数は小学校2年生で3.7ポイント低く、中学校2年生で0.6ポイント低くなっています。学習活動が進み、中学校卒業までには概ね全国平均に近づいていますが、低学年の段階で学習を十分に定着させることができれば、全国平均を超えて学力を向上させる可能性があり、授業改善と学習の定着が必要な状態にあります。国語では（表2参照）…小学校の段階ではいずれの学年でも「読む力」が不足していますが、中学校2年生になると全国平均を少し上回っています。「関心・意欲」「話す・聞く」「言語」については、いずれの学年でも全国平均を下回っています。全国的な傾向と同様、学年を追うごとに「言語についての知識・理解・技能」が下がっています。言語の理解が不十分では読む力や書く力、その他にも大きな影響を及ぼすことから、まずは語彙（ごい）の拡充や漢字の理解などの手だてが必要であると考えています。算数・数学では（表2参照）…小学校の段階では、いずれの項目においても全国平均を下回っています。中学校では、「数学的な見方や考え方」が全国平均を少し上回っていますが、課題があることが分かっています。特に、「関心・意欲」の低下は、自ら学ぶ態度を阻害する可能性があり、学年を追うごとに低下しています。

市立各小・中学校では、学力調査の結果を受け、年間指導計画を見直したり、授業改善推進プランを作成したりしています。各学校のこれらの資料については、学校のホームページから確認することができます。教育委員会では今回の調査結果を受け、以下の取り組みを進めています。○市立全小・中学校に学力向上指導員を配置します。学力向上指導員は、学習指導の補助など、学力向上に向けて各学校で活動します。○各中学校には新入学予定児童の結果を年度当初に送付します。個に応じた課題に配慮して学習指導を進められるようにします。○小・中学校の教員が互いの授業を見て学び合う研究会を開催します。児童・生徒の発達段階に応じ、系統的に学習活動を進めるようにします。今後も教育委員会では、学力向上に向けて、各種調査結果を活用しながら学校の指導内容が充実するよう支援を進めていきます。詳しくは指導室☎470・7781へ。

「総合教育会議」は、市長と教育委員会が、地域の教育課題等について意見交換や協議を行う場です。平成29年11月10日、市立中央図書館視聴覚ホールにおいて、平成29年度第3回目の会議が開催されました。会議の前には、市立東中学校で行われた、「他人の意見を聞き、新たなものの見方や考え方に気づく」という、パネルディスカッション形式による国語の授業を参観後、「市立中学校の国語力向上について」及び「平成30年度予算（教育費）について」を議題に、市長と教育委員会が意見交換を行いました。前段のテーマについて教育委員会からは、「これからの

総合教育会議を開催しました

「総合教育会議」は、市長と教育委員会が、地域の教育課題等について意見交換や協議を行う場です。平成29年11月10日、市立中央図書館視聴覚ホールにおいて、平成29年度第3回目の会議が開催されました。会議の前には、市立東中学校で行われた、「他人の意見を聞き、新たなものの見方や考え方に気づく」という、パネルディスカッション形式による国語の授業を参観後、「市立中学校の国語力向上について」及び「平成30年度予算（教育費）について」を議題に、市長と教育委員会が意見交換を行いました。前段のテーマについて教育委員会からは、「これからの

平成30年度 教育予算の話

平成30年度一般会計歳出予算431億9,400万円のうち、教育委員会が所管する取り組みには、第4次長期総合計画後期基本計画に掲げる基本目標の一つ、「子どもの未来と文化をはぐくむまち」に基づき、45億3,200万円の予算が組まれました。教育委員会はどんなことにどれくらいの予算を充てるのか、主なものをお知らせします。

○ICT教育環境の整備…全児童・生徒用のパソコンをタブレット型に変更、校内Wi-Fi環境の整備、電子黒板機能付きプロジェクター、実物投影機等の整備 1億1,766万円

○学校施設の整備…第五小校舎棟増築工事（増加児童対応）2億7,244万円▼神宝小校舎棟大規模改修工事 3億1,350万円及び大門中学校舎等大規模改修工事 3億6,720万円（いずれも老朽化した校舎の屋上防水等のため）

○スポーツ環境の整備…（仮称）上の原地区屋外運動施設整備（2020東京大会を見据え市民のスポーツに取り組む機会提供） 1億6,069万円



※詳しくは市ホームページ「東久留米市の予算～教えて！」等をご参照願います。

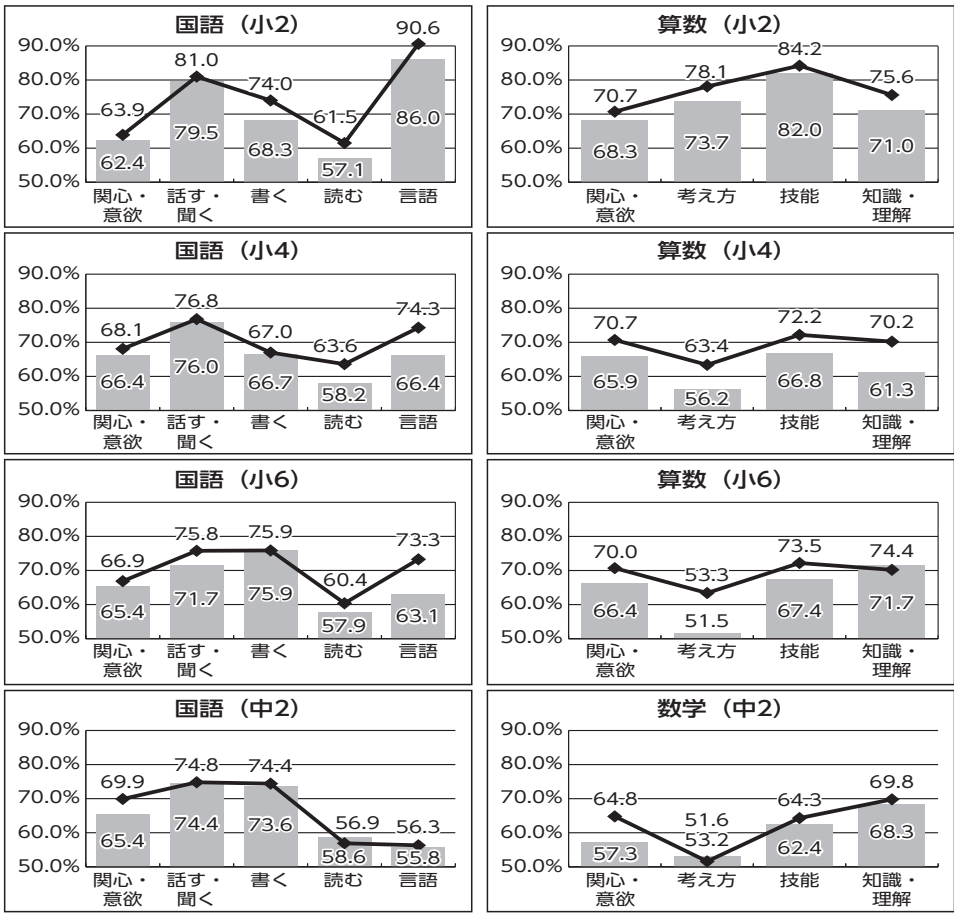
表1 小学校卒業時・修了時学習定着度調査（国語、算数・数学）の市平均得点率

※（ ）内は全国平均 ※単位：%

	小学校第2学年	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第2学年
国語	72.8 (76.8)	66.9 (70.5)	67.3 (71.5)	65.7 (65.6)
算数・数学	75.6 (79.3)	61.4 (68.6)	63.5 (67.1)	61.3 (61.9)

表2 小学校卒業時・修了時学習定着度調査（国語、算数、数学）における市と全国の比較

※棒グラフ：東久留米市 折れ線グラフ：全国 ※縦軸が得点率で、横軸が観点



①小学校で2校目の自閉症・情緒障害特別支援学級が開設

市立南町小学校1校にあった自閉症・情緒障害特別支援学級の対象児童が増加したため、30年4月1日から、市立神宝小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級「なのはな学級」を2学級で開設しました（年度当初の学級児童数は15人）。通学区域は指導室にお問い合わせください。

②小・中学校に特別支援教室が開設～30年度から小学校で、31年度から中学校で

平成31年度からは、市立中学校に特別支援教室が設置され、小学校同様の内容で実施されます。小学校の特別支援教室で、通常の学級に在籍している発達障害（高機能自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害等）の児童の一部が週に1～8時間、校内に設置された特別支援教室で特別な指導を受けています。期待される効果は、①これまでの通級指導学級による指導を全ての中学校で実施することで、より多くの生徒が支援を受けられるようになり、在籍校での個別指導や小集団指導を通して、生徒の学力や在籍学級における集団適応能力の伸長が図られること、②在籍学級担任と巡回指導教員との連携が緊密になり、指導内容の充実が図られること、③教職員や保護者が指導の内容を知る機会が増え、理解が図られることです。円滑な開設に向けて市民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

③知的障害特別支援学級で使用する一般図書展示会を開催～5月29日（火）第三小学校体育館で800点が集まりました



東久留米市では、特別支援教育のより一層の質の向上を目指し、今年度は特別支援教育に関連した各種研修の充実も図っています。今回は知的障害特別支援学級で学習の際に使用する図書に注目し、「特別支援教育教科書調査研究資料（平成29年6月・東京都教育委員会）」に掲載されている書籍のうち、現在流通し入手が容易であるものと、子どもたちに手にとってほしい本のおよそ800点を一堂に集めて展示し、実際に手にとって意見交換会を行いました。併せて、「特別支援学級における教科用図書の選定に向けて」を演題に、立川ろう学校の月崎泰照副校長から、東京都教育庁指導部特別支援教育指導課に勤務していた際、知的障害特別支援学級の使用教科用図書の担当者として考えていたことや、感じていたこと、これからの特別支援学級の在り方など、広い視野からの講演を行いました。近隣市からも多くの参加者があり、「特別な支援を必要とする子どもたちのためには使用する教科書も工夫したい」「良書ばかりで子どもたちにぜひ読ませたい」と言った声が寄せられました。

《教育委員会の審議結果をお知らせします》

平成29年12月28日に開催した第8回臨時会から、平成30年6月5日に開催した第6回定例会までに付議された議案（20件）は、すべて承認されました。議案及び報告事項の詳細については、市のホームページや市政情報コーナー等でご覧いただける議事録をご覧ください。詳しくは教育総務課庶務係☎470・7775へ。

特別支援教育情報
①②③のいずれも詳しくは指導室特別支援教育係☎470・7781へ。